

グリーンインフラの推進

国土交通省 総合政策局



○ グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

I 気候変動・防災・減災に関するもの



透水性・保水性のある歩道、
浸透・貯留機能のある公園等

公園と一体となった遊水地



グランモール公園



鶴見川多目的遊水地

II 緑と水の豊かな生活空間の形成に関するもの



琵琶湖と市街地を結ぶ緑軸
としての公園

地域住民による緑地の管理



草津川跡地公園



みつけイングリッシュガーデン

III 投資や人材を呼び込む都市空間の形成に関するもの



自然環境と調和したオフィス
空間

都心のビジネス街区の緑化



二子玉川ライズ



Marunouchi Street Park

IV 自然環境・景観・生態系保全と地域振興に関するもの



河川における生物の生息・繁殖環
境、多様な河川環境の保全・創出

荒廃水田のビオトープや
環境教育の場への転換



鶴見川水系梅田川



立梅用水土地改良区

グリーンインフラ推進戦略の策定(令和元年)

◆グリーンインフラが求められる社会的・経済的背景

- (1) 気候変動への対応 (2) グローバル社会での都市の発展 (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との親和性
(4) 人口減少社会での土地利用の変化への対応 (5) 既存ストックの維持管理 (6) 自然と共生する社会の実現
(7) 歴史、生活、文化等に根ざした環境・社会・経済の基盤

◆グリーンインフラの特徴と意義

(1) 機能の多様性

- 施設や空間そのものが多様な機能を有する
- 様々な活動の場となり、多様な機能が発揮される1つの社会資本にとどまらず、エリア全体の資源を活かすことで、より効果的に機能を発揮

(2) 多様な主体の参画

- 地域住民との協働や民間企業との連携により、多様な主体が維持管理等に関与
- グリーンインフラを基点とした新たなコミュニティやソーシャルキャピタルの形成
- 多様な主体が参画するからこそ、適切なマネジメントが必要

(3) 時間の経過とともにその機能を発揮する

(「成長する」又は「育てる」インフラ)

- 年月を重ね、自然環境の変化にあわせて機能を発揮する、又は新たな機能が発現
- 時間の経過とともに、地域の歴史、生活、文化等を形成
- 自然環境が有する不確実性を踏まえた順応的管理が必要

◆グリーンインフラの活用を推進すべき場面

- (1) 気候変動への対応 (2) 投資や人材を呼び込む都市空間の形成 (3) 自然環境と調和したオフィス空間等の形成 (4) 持続可能な国土利用・管理
(5) 人口減少等に伴う低未利用地の利活用と地方創生 (6) 都市空間の快適な利活用 (7) 生態系ネットワークの形成 (8) 豊かな生活空間の形成

◆グリーンインフラを推進するための方策

基本方針: 多様な主体の幅広い連携のもとに行うグリーンインフラの取組を社会資本整備や土地利用等を進める際の検討プロセスにビルトイン

(1) グリーンインフラ主流化のための環境整備

- ① グリーンインフラ官民連携プラットフォームの創設
- ② 相談窓口の設置等
- ③ 各種法定計画への位置づけ
- ④ 都市計画に係る運用方針等の見直し
- ⑤ 技術指針の策定と要素技術の研究開発
- ⑥ 土木設計におけるGIへの配慮
- ⑦ 各主体の役割分担及び費用負担について整理

(2) グリーンインフラ推進のための支援の充実

- ① モデル事業の実施と優良事例の横展開
- ② 計画策定等に関する新たな支援制度
- ③ 緑の総合的な支援制度
- ④ GIを活用した雨水貯留浸透対策の推進
- ⑤ 交付金等による重点的支援の実施
- ⑥ 民間の取組に対するファイナンス支援の実施
- ⑦ ファイナンス確保に関する事例集の作成

(3) グリーンインフラに関する評価手法の開発等

- 国土交通省において、産学官の多様な主体が参画し、グリーンインフラに関する様々なノウハウ・技術等を持ち寄る場として、「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」を令和2年3月に設立。
- 「企画・広報部会」、「技術部会」、「金融部会」を設置し、グリーンインフラの社会的な普及、活用技術やその効果評価等に関する調査・研究、資金調達手法等の検討を進め、グリーンインフラの社会実装を推進。

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム (R2.3設立)

会 長：西澤敬二（経団連自然保護協議会 会長）
 会長代理：涌井史郎（東京都市大学 環境学部 特別教授）
 運営委員長：石田東生（筑波大学 名誉教授）

2022年12月末日現在

会員区分	会員数
都道府県及び市区町村	101
関係府省庁	14
民間企業、学術団体等	476
個人	1,047
合計	1,638

会 員

- 都道府県 市区町村
- 関係府省庁
- 民間企業 学術団体等
- 個人

活動内容

企画・広報部会

GIの社会的な普及

- 会員同士のパートナーシップ構築拡大
- GI大賞の実施
- 教育機関に向けた理解醸成の検討

技術部会

GI技術の調査・研究

- GI効果の見える化を図る評価手法の体系的な整理
- GI技術の効果的活用方策に関する検討

金融部会

GIの資金調達の検討

- 多様な資金調達のあり方を検討するための地域モデル実証の実施
- 官民が連携したブレンディッドファイナンス活用方策に関する検討

【主な民間会員】※()内は会員数
 建設/環境コンサルタント・シンクタンク (137)、建設業等 (104)、造園業等 (62)、測量・設計業 (26)、不動産業 (18)、金融業 (10)、マスコミ (7)、業界団体等 (51)、NPO (16)、研究機関 (18)、その他 (40) 等

グリーンインフラ産業展2023の開催



- グリーンインフラの社会的な普及や国内産業市場の形成等を図るため、令和5年2月に「グリーンインフラ産業展2023」を初開催（主催：日刊工業新聞社 共催：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム）
- グリーンインフラ大賞表彰式や各種セミナー等を実施するとともに、企業等による技術を展示

開催概要

会期 2023年2月1日(水)～3日(金)

会場 東京ビッグサイト・南ホール

主催 日刊工業新聞社 共催 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

後援 農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、金融庁

協賛 (50音順)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| (独) 都市再生機構 | (一社) 地域国土強靱化研究所 |
| (公社) 雨水貯留浸透技術協会 | (一社) 日本インフラ空間情報技術協会 |
| (公財) 都市緑化機構 | (一社) 日本建設業連合会 |
| (公社) 日本下水道協会 | (一社) 日本公園緑地協会 |
| (一社) 街路樹診断協会 | (一社) 日本造園建設業協会 |
| (一社) 建設コンサルタンツ協会 | (一社) 日本緑化センター |
| (一社) 公園財団 | (一社) 不動産協会 |
| (一社) 交通環境整備ネットワーク | (一社) ランドスケープコンサルタンツ協会 |
| (一社) ソーシャルグリーンデザイン協会 | |

出展者 (50音順・法人格略 ※は共同出展者 ★はオンライン展にも出展 ☆はオンライン展のみ)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ●安藤・間 ●雨水貯留浸透技術協会 ●GIを考える勉強会 ●応用地質 ●大林組★ ●鹿島建設 ●グリーンインフラ官民連携プラットフォーム★ ●グリーンインフラ総研 ●建設技術研究所 ●小松マテリアル ●サンエービルドシステム | <ul style="list-style-type: none"> ●GXゾーン ●清水建設 ●※ザクティ ●※日本道路 ●城東リブロン ●昭和コンクリート工業 ●白崎コーポレーション ●積水化成工業 ●総合研究奨励会 未来のくらしと水の科学研究会 ●ソマノベース ●竹中工務店★ | <ul style="list-style-type: none"> ●東興ジオテック ●トータツ ●都市緑化機構 ●飛鳥建設 ●ニフコ ●日本下水道協会 ●日本建設技術 ●日本工営 ●※日本工営都市空間 ●ネットゼロウォーター研究会 ●バイオーム★ ●箱根植木 | <ul style="list-style-type: none"> ●パシフィックコンサルタンツ ●パソナ/パナソニックビジネスサービス ●林物産発明研究所 ●※シンシンブロック ●※中川ヒューム管工業 ●※林物産 ●フジタ☆ ●藤野興業 ●フッコー ●補助金獲得パートナーズ★ ●水辺総研 ●わくわくパーククリエイト |
|--|--|---|--|

当日の様子

来場者数: 17,795人



開会挨拶(西澤会長)

グリーンインフラ大賞表彰式

講演

対談

セミナー

展示

先導的グリーンインフラモデル形成支援

○ 地域主導による取組を活発化させるため、官民連携の体制づくり等で先導的な取組を行っている地方公共団体に対して、専門家を派遣するなどの支援を実施

■ 支援の全体像（イメージ）

取組①：計画づくりの支援

PDCAサイクルを円滑に回すための
ロードマップ、アクションプランの作成を支援
■ 検討体制の構築、検討資料の作成等

取組②：協議会の設置・運営・関係者との調整

計画の実行に向けた
産官学の協議会設置
関係機関との調整



取組③：モデル事業の実施

技術開発の推進
企業等の支援



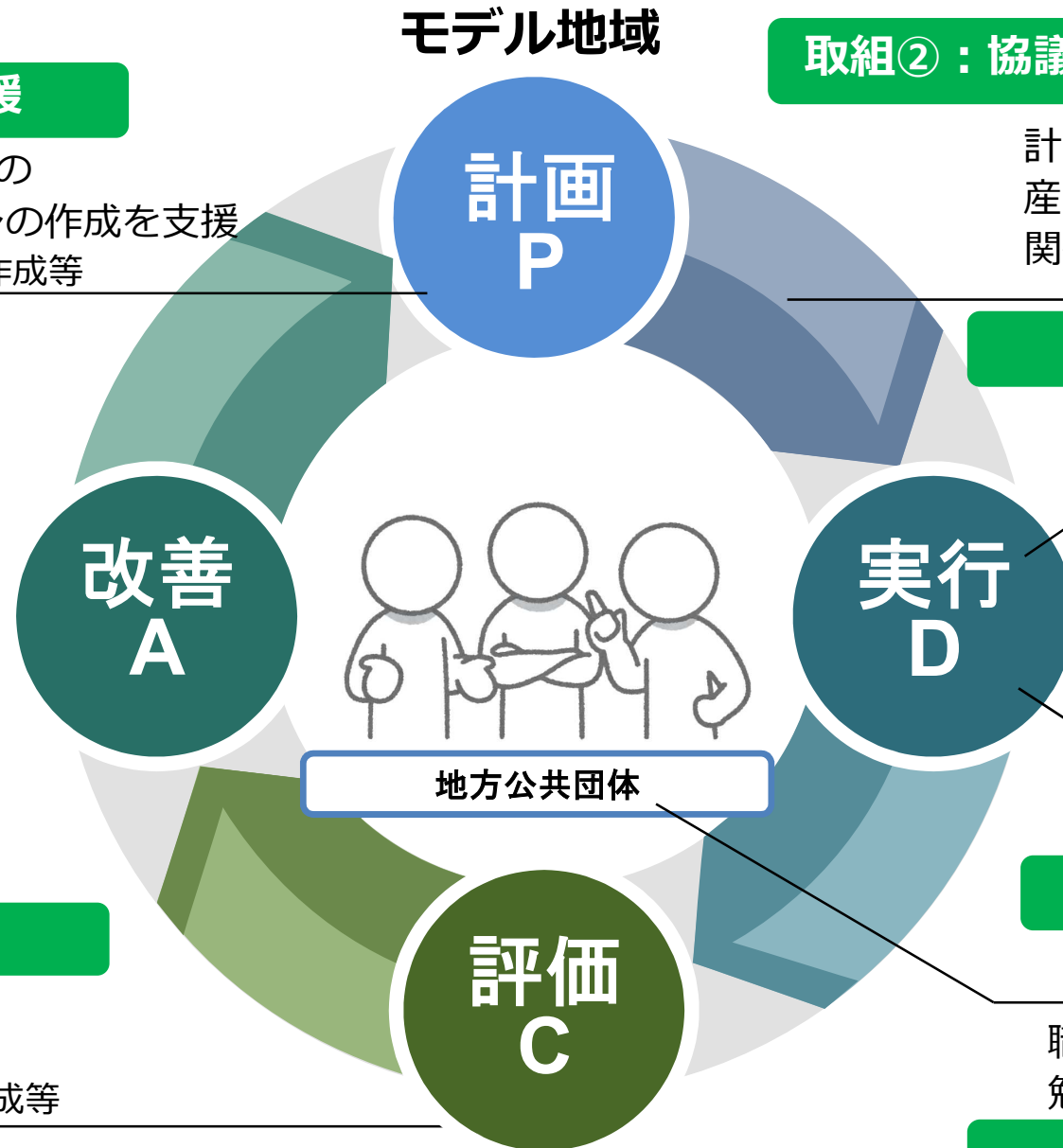
支援制度の紹介
国土交通省補助事業の活用

取組④：支援制度の助言



職員のノウハウ蓄積のための
勉強会を主催

取組⑥：勉強会の主催



取組⑤：評価委員会の設置

地域の取組を評価できる
専門家の集団の形成を支援
■ 評価体制の構築、評価資料の作成等

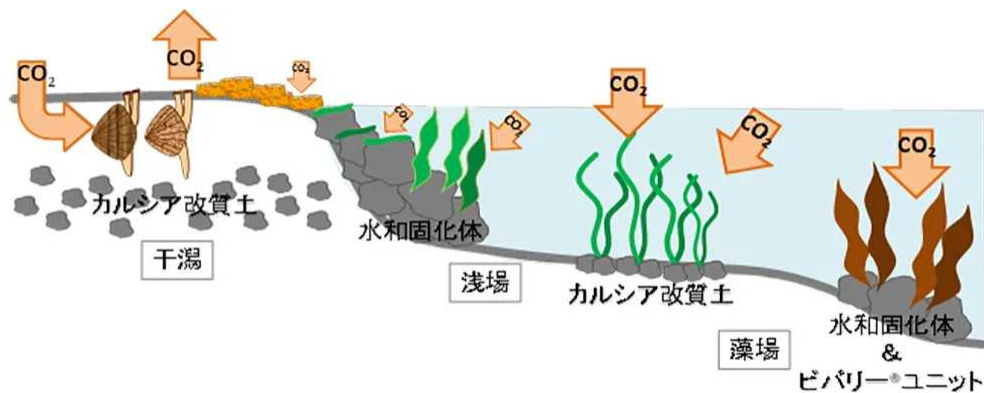
○ グリーンインフラに関する新技術・サービスの開発促進をするため、民間企業等による自然環境の多様な機能を利用する技術で実用段階に達していないものの開発支援を実施

【募集する技術の例（イメージ）】



維持管理コスト低減に資する緑化技術

草丈の生育が少なくなるよう品種改良され、草刈り作業等の削減を実現するわい性チガヤ



未利用素材を使ったブルーカーボン技術

製鉄のプロセスで発生する鉄鋼スラグを活用して浅場・干潟・藻場などを造成し、CO₂固定を促進



防災・減災効果の高い雨水浸透技術

保水性舗装と植物の生育を阻害しない腐植砕石を組み合わせた、雨水浸透容量の多い基盤



定量的な効果のモニタリング技術

樹木の位置や情報を入力するだけで、二酸化炭素削減量や雨水流出抑制量を定量的に計算

○ 緑と自然豊かな民間都市開発の推進や都市公園整備、道路緑化、多自然川づくり等を通じてグリーンインフラの社会実装を推進することにより、生物多様性の保全・再生、安全・快適な空間づくりや魅力的な地域づくり、脱炭素化等を効果的に進めるとともに、環境を重視した民間投資の拡大を促進し、ネイチャーポジティブ経済への移行を推進する

緑化・緑地の創出等による脱炭素化の推進

- 都市公園や民間緑地創出によるCO2吸収源対策の促進
- 緑地創出によるヒートアイランド現象の緩和
- 道路緑化、雨庭、鉄道敷緑化、森林整備、木材利用等によるCO2吸収源対策や暑熱緩和



公園を活用した健康づくり
(東京都立川市・昭島市)



雨水貯留浸透施設を備えた公園緑地の整備
(神奈川県横浜市)



軌道敷緑化の整備
(熊本県熊本市)

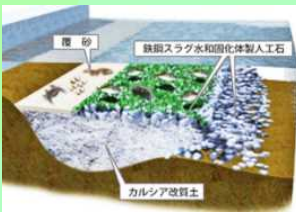


雨庭の整備
(京都府京都市)



住居地域における道路緑化
(千葉県印西市)

- 干潟・藻場等の造成によるブルーカーボン生態系を活用したCO2吸収源対策



浚渫土砂や鉄鋼スラグ等を活用した藻場等の造成によりCO2吸収源対策を促進
(千葉県君津市)



適切に管理された人工林

- 多自然川づくりやかわまちづくり等による魅力ある水辺空間の創出



河道掘削による湿地再生
(円山川、兵庫県豊岡市)

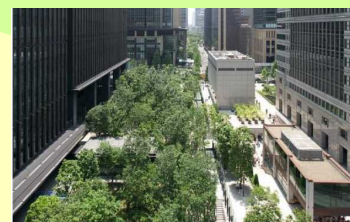


地域資源の保全と商業施設が連携したかわまちづくり
(五ヶ瀬川、宮崎県延岡市)

- 民間開発による自然と調和したオフィス空間の形成
- ESG不動産投資の促進



二子玉川ライズ (東京都世田谷区)



大手町の森 (東京都千代田区)

環境を重視した民間開発等
民間投資の拡大

気候変動適応、生物多様性保全・再生

グリーンインフラによるGX、ネイチャーポジティブ経済への移行推進

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム (R2.3設立)

産学官が参加
会員数1,652
(R5.1末)

○ グリーンインフラの社会的普及

○ グリーンインフラ技術の調査研究(効果評価等)

○ 民間資金活用方策の検討(グリーンボンド等の活用)

官民連携による取組加速化